

# のそみ

Public Relations Magazine NOZOMI

伊藤 宣子  
聖ウルスラ学院英智 校長



熱海 秀宗  
公益社団法人 仙台青年会議所  
第67代理事長



02  
対 理 事 長  
談 話



08 | 事業報告

12 | 新入会員紹介

13 | 2018年度 新入会員 PickUP!

15 | 理事長挨拶・次年度理事長予定者紹介・編集後記





公益社団法人仙台青年会議所 第67代理事長  
**熱海 秀宗**  
 理事長  
 対談  
 聖ウルスラ学院英智 校長  
**伊藤 宣子**

聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校  
 校長 伊藤 宣子 プロフィール (平成30年11月14日現在)

【職歴】  
 昭和43年4月 聖ウルスラ学院中等学校 教諭  
 平成10年4月 聖ウルスラ学院中等学校 教頭  
 平成12年4月 聖ウルスラ学院中等学校 副校長  
 平成16年4月 聖ウルスラ学院中等学校 校長  
 平成18年4月 聖ウルスラ学院英智小・中学校 高等学校 校長  
 (現在に至る)

【現職】  
 聖ウルスラ学院英智小中学校・高等学校校長、(学法)聖ウルスラ学院理事団体の委員など  
 宮城県私立学校審議会委員、宮城県高等学校入学者選抜審議会委員  
 宮城県私立中学高等学校連合会副会長(および校長部会長)  
 私立中高連を代表して県立高等学校将来構想審議会委員、宮城県青少年問題協議会委員、宮城県いじめ問題対策連絡協議会にも出席



仙台青年会議所 熱海理事長(以下、熱海)

私たち青年会議所は当時、戦後復興の役目を担い67年前に設けられました。

以来、地域活性化や、人づくり、街づくりの活動しております。現在の我々の活動ですが設立当時の目的と現在の目的が時代の変化によって色々と変わってきている部分があり、続けるという事が大変難しいと感じております。それを踏まえて、聖ウルスラ学院設立当時の思いをつなぎ続ける為にはどの様な事をされているのでしょうか。

色々な社会状況、環境が変わってきた中でどの様な事を教育に活かしているのかなど、お聞かせください。

**聖ウルスラ学院英智 伊藤校長(以下、伊藤)** 教育という観点から考えると命の尊厳性なる尊い人間、かけがえのない命、と考えた時にどんな時代でも変わってはならないもの。これがあるかと思えます。これが価値観というものかなと思えます。ただ時代は変わっていきますから時代が求めるニーズに応えなければ教育は進んでいかないと思っております。ですから教育の不易と流行、両方の教育が必要になります。

本校の創立者アンジェラ・メリチは当時ヨーロッパや日本にも女性の為の学校がなかった十六世紀に、ないものを作る決断をしました。

その決断をさせたのが何かというと、当時の戦場の中で平和を希求するというのは誰しも願った事でしょう。その平和を実現させる為に、どうすれば実現するのか、ここに彼女は思いをはせたと思います。

やはり、命に深くかわる女性にこそ教育が必要ではないか。男性と共に女性が子どもの命に関わって、子どもの将来を考え、そして子どもの生きる社会を考える。そういう賢い懸命な女性の為の教育が必要だと考え世界で初めて女子だけの教育を始めたのです。これは凄い事だと思います。開設する為に、まず仲間達を集めて生活を始めることから修道院を作ります。修道院を作って教育を始めたころには、彼女はすでに65歳になっていました。当時の65歳ですから大変な高齢

ですよ。それでも彼女はあきらめない。その背景に何があったかという、イエス・キリストの生きる指針を聖書の中に見出しておられたのです。どんなふう開設しなければならぬのか。何の為に開設しなければならぬのか。その事を深く考察していた彼女が、学校というものを選択して始まったんです。



聖ウルスラ学院の歩みをスライドで見る



彼女が残している言葉の中に、「私が決めた会則を時代の様子によって変えなければならぬ時は、懸命に祈りながら変えなさい。」こういう言葉を残しております。キリスト教的人間観はぶれない、しかし時代のニーズに応えなさいと言っているといます。これは凄い事だと思っています。

このような教えから、私共は15年前に教育改革を始めました。小泉内閣は、これからの時代はあらゆる社会で構造改革をしなければならぬ時代に入ったと宣言しました。

**熱海** 貴校の設立背景や現在までにつなぎ続けてこられた思いについて、よくわかりました。

私たち青年会議所は、「新しい日本の再建は我々青年の仕事である」という覚悟を持って1951年に運動の第一歩を踏み出し、「人づくり」「街づくり」「教育」「国際社会」「環境」など様々な分野において、青年として

の正義感、理想を追求する心、真摯な情熱という価値観のもと積極的にかかわってきました。それぞれの時代で人は変わり、手法や表現は異なっても、創始の「志」は脈々と60年を超えて今も受け継がれおり、「奉仕・修練・友情」の3信条を掲げ、多様化する地域課題や市民意識から生まれる様々なニーズ対して地域運動を展開しています。

時代の変化に伴って社会のニーズも変化しますね。

**伊藤** すでに21世紀にはいりました。その時代に比べると言うような事をしなければならぬ。このような話を聞かせていただいて、その時ふと思ったのは1970年代、日本の社会が大きく変わった時代です。社会が変わるって事は子ども達も変化していくという事です。しかし子ども達も変化していくのに日本

の教育が変わりませんでした。6・3・3制のままでした。子どもの成長がすぐ早くなってきているのに教育のシステムがこれでいいのだろうか。そのころから学者達がいろいろな角度で検証し始めて著書もだいたい出てきました。がやっぱり変わらない。しかし、あらゆる社会で構造改革をしなくてはならない。それは学校教育にも当てはまるのではないかと、そこで、子どもの成長変化に伝える4・3・2制度をとって、私たちは小泉内閣に申請し、許可をもらい学校教育を改革しました。時代が要請するという事は何の為に要請されたのか、どんな時代にこの子ども達が生きていくのかを検証しながら教育を進めていかなくてはならないと思っております。それには多様な人財を生かす戦略という事です。その多様化の時代に、多様な人財を生かしていく組織作りが今一番求められているんじゃないかと思えます。

やっぱり一人一人の個性を伸ばす。そういう教育実践プランニングを立ててくなくてはならないと思います。

社会の皆様方から私達の学校に色々な風を吹き込んでいただいて、その風を味わいながら教育を改革していく。それが必要なと思います。

**熱海** 私たち青年会議所も、地域社会へ貢献できるリーダーを一人でも多く育成するという事で、例会や事業の実施など様々なプログラムを通して人的な成長の機会をより増やしていく必要性があると感じています。そして同時に、多様な人財を生かす組織の在り方も重要になりますね。



## 教育改革

**熱海** 伊藤校長は子ども達に接する大人への指導について、どういう事を研修されているのか教えていただきたいです。仙台青年会議所には200人以上のメンバーがいて、色々な活動を実施しておりますが、伝え方と伝わり方が難しいところがあると感じます。そういう点ではないかがでしょうか。

**伊藤** 教育改革をしようと思った時は、聖ウルスラ学院の大きな試練の時でした。子ども達が集まってこなくなったのです。これは学校経営ができなくなるといふ事です。聖ウルスラ学院がどのような教育をしているのか。魅力ある教育ができてくるのか。このままでは学校潰れ

るといふ話を教員にしたものです。私学ですので、教職員の資質・能力として経営感覚がないと務まらないですし、自分達で何かを創り出さなければならぬと思っております。学校教育だって、今のままで良いという事はなく、何かしようという発信をした事で教師達に火がつけました。

これまでの歴史があります。いろいろな試練がある中で今があるのです。世界71カ国で広がり続けていて、仙台が潰れたとなると滑稽ですよ。では何をするのか。幼稚園から高校までの一貫した教育があり、これをもっと強めていく事だと思いました。1970年代にできなかった子ども達の成長段階に合わせた教育ができると思ひ、少しずつ案を出していくと教員も面白がってくれました。しかしこれを実践していく中で色々な問題が生じてきました。問題が出てくるという事は、課題、その解決が存在し成功への道筋をつくりながら、これまで活動を進めてきました。

成長に合わせて子ども達の思考回路も変わっていきます。「10歳の壁」という言葉があります。いわゆる反抗期に入っていくタイミングです。自分の意志が発達し自己表現ができるようになり急速に成長する時期です。

4年生で一段落と考えて、5年生からは思春期に入る時期です。思考力が向上していきます。これは尊いパワーで決まっています。これは尊いパワーで決まっています。8年生いよいよ中学2年生になり、落ち着きを取り戻します。高校生と一緒に育てていき18歳を意識させます。

日本人は世界の商社マン達と同じテー

ブルを囲んだときに発言ができにくく取り残される現実があります。人間の心を知るためには言葉というのとはとても大切ですが、我が校としては「聖書のみことば」が生活に生き続ける事を大事にしています。言葉が教育の中で大黒柱にならないといけない。日本は察しの文化「言わなくてもわかるでしょう」という文化がありますよ。これがあつた時代は、時の流れがゆっくりと流れる時代で察しの文化で良かったのだと思います。また、それは日本の美徳だったのかもしれない。しかしこんな風に情報が一気に流れてくるこの時代に、察しの文化を共有する事はできないのです。そこで、本校では、研究開発学校として教育課程の中に欧米型の世界標準母語教育となっている言語技術教育(ランゲージアーツ)科を組み込みました。この教育効果は、子ども達の成長にはつきりと表れました。沈黙はありません。誰々ちゃんの発言は良いと思う。これに自分の意見を加えさせ



て欲しい。自分はこの点に対しこう思う。理由はこう。という様に、子ども達の対話が明快です。思考力・表現力がレベルアップしているのです。時代の変化をみて、教育を変えなければならぬのです。先生方はそれをどの様に研修し、教えていくのか。たとえば、誰も勉強をした事がない新しい教科を作ります。初めは手探りで、その研究をしている人と出会いつつながら、彷徨いながらの日々でした。ある時、学びを得るために文科省へ手を挙げた事がありました。そうすると、その部門の研究者から発信がくるのです。チャンスがくる。それは筑波の言語技術研究所から発信がきました。新しい事を取り入れ、チームを作り、研究開発をしていきました。そうやって進んでいけば道は切り開かれるのです。

また、PTAと連携して学校と保護者がタッグを組まないといけないと思ひました。トライアングルの教育と考えると、保護者の研修会を開催して子ども達を支えていきました。こちらの意向を伝えると、PTAも、ものすごく協力してくるのです。「良く子ども達が成長してくれる事が私たちの財産」、応援しますと言ってくれました。

**熱海** 私たちも行政や他団体と連携する事で、大きな事業を行う事ができます。代表的な事業で言えば毎年8月5日に開催させていただいている仙台七夕花火祭ですが、こちらは行政をはじめ様々な関係各所と協力して開催しています。また、街づくり事業、青少年育成事業は仙台市と連携する事で効果的に事業展開をしており、本年は障害者体験を通じて思いや

りのところを育む事業を行いました。こちらは、実際に小学校の授業の一環として取り入れていただき、他にも小学校や地域と連携して防災意識を高める事業を展開させていただいております。地域の方々から応援していただける事はとても嬉しく思っています。市民意識変革運動も教育改革もそうですが、時代背景に合わせて変化する社会情勢の中で、変革を起こす、改革を起こすということは大変な苦労がともなうと思います。また多様な現代社会への対応という部分も併せて考えなければいけないですね。

**伊藤** 18歳に選挙権をあたえるという方針が出されたとき本当に驚きました。しかし、発想の転換なのですね。子ども達が大きく変わる一つの転換期になると考えました。高校生の子ども達ももう一段階上へとあがっていく。大人と同じ土俵なのだという事を子ども達に植え付けていきました。急速な変化がある時代です。やらないとダメな時代に入っていると思います。多様性を理解するというダイバーシティ教育。これは高校卒業しても、大学生になっても、社会人になっても、とても大事なことなのだと思います。

## 体系的な学びと体験的な学び

**熱海** 多様性を互いにまず理解しなければならぬという話ですけれども、どうしても今の子ども達はネットやゲームだったりとバーチャルな事が多いと感じています。

私の理事長所信の中に直接体験という



文言があります。話しを聞いたり見たたりすることも大事なのですが、実際に自分が体験してみる事が一番身につくと思います。

近年、我々、仙台青年会議所では子ども達に対して講師をお招きして講習を開くのではなく実際体験してもらう事業を行っています。

聖ウルスラ学院では、全国、世界に学校がございますので、交換留学生等もあり学校の中でもいろいろな事を直接生徒にやらせてみるというのが印象的に感じておりました。そういう点を踏まえカリキュラムを組まれているのでしょうか。

**伊藤** 体系的な学びと体験的な学び。この両方を学びの中に展開していかないと豊かな感性を持った子どもにはならない

と感じています。学びの中には体験的なものが絶対に必要です。

そこは意識して一年生から九年生まで毎年体験学習をさせています。一年生と二年生は二学年で、親元を離れて泉ヶ岳に行きます。親御さんたちは大変不安そうに見送っていますよね。でも、上級生の二年生は二回目なので初めての一年生にいろいろ教えているわけです。この体験はものすごく大きいものです。

他にも蝶の生涯をテーマに学んでいます。教員達も喜んでくれて、キャベツを与えてそのキャベツに卵が付いて、幼虫がキャベツをどんどん食べていく。その様子を24時間観察カメラで成長の記録を教員達が夢中で撮影して生徒達に見せます。教室でやっているのに、子ども達も朝早くに登校してきて「どうなったの」と興味をもつ訳です。その感性が大事なんです。

三年生になると、単学年で山形県の金山に林業体験に行きます。本校はユネスコスクールなので、その教育の一環として行います。山形の新庄小学校も同じユネスコスクール同士なので学年交流を行っています。

四年生になると最上級生と研修を行います。セカンドステージの最上級生は七年生です。リーダー研修会を岩手県の安比高原に行きスキーを通して「リーダーとは何か」という体験をさせます。国際的なスキー場ですから海外からもたくさんのお客さんが来ます。そこで学んでいる英語を使って、やれたぞという体験をさせています。

五年生は福島に行つて農業体験。

六年生になると、世界各国から日本の大学に来ている留学生に呼びかけをして企画に参加してもらいます。教育学を学んでいる留学生に限定し、六年生が留学生と一緒に2泊3日のオールイングリッシュの生活をします。今まではアメリカからの留学生とだけ交流をしていたのですが、それでは面白くないと個人的に感じていました。せっかく日本にいろいろな国から留学生達が来ているので、いろいろな国から来ている人達と交流できないかと思ひ企画しそれが実現した形です。子ども達は参加してびっくりしています。どこの国の人にも英語は通じるという感動はものすごく大きくグローバルの体験ですね。

七年生は四年生と共にリーダー研修。八年生になると岩手県の久慈に行き漁村の方々の家にお邪魔し漁業体験をします。そうすると子ども達は漁業とはどんなものなのかと、とてもよく観察しそして感じます。漁師達と朝早くに出かけるなど日常では体験できない事を体験してきます。

九年生になると総集編で、オーストラリアのケアンズに修学旅行です。オーストラリア人の家にホームステイをさせ、ケアンズの学校見学をするという形で展開しています。

**熱海** 私学ならではのプログラムですね。グローバルな視点や感覚を若いうちから育むことはとても必要な事だと思います。私たち青年会議所の特徴として国際的な機会が多くあり、姉妹JCと呼ばれる海外の青年会議所との交流事業を通してた経験から得られるメンバーの国際力強



化やグローバルな視点や感覚を養う事  
で、お互いの価値観を尊重する相互理解  
の精神につながると確信しています。

子ども達の成長に合わせて様々な体験  
の場を用意されているという事で、学習  
のみに特化するのではなく人格形成期に  
最も必要な社会性や人間性を育める濃厚  
な9年間になっているのですね。

**伊藤** この九年間だけでも、教室だけで  
学ぶのはもったいない。世界を広げてあ  
げたい。それが子ども達を元気にしてい  
るのかなと感じています。

いろいろな体験を通じて涙ながらに生  
活する子どももいますが、そんな体験も  
子ども達を成長させるのかもしれない。  
逃げない・諦めない・果敢に挑戦する

## 12年間の教育を通して

熱海 すごいですね。

私も仕事があつて、なかなか帰れなくて  
全部妻に任せている事が多く一緒に居ら  
れる時間が無い中で、家庭だったり、学  
校、幼稚園などに任せっきりになってし  
まっていると思つています。

それでも土日はなるべく子どもと一緒  
に遊ぼうと心掛けてますし、できる時に  
できるだけやってみようと考えて行動す  
るようにしています。

青年会議所の活動もそうですが、私達  
にはもちろん家庭もあつて、仕事もあつ  
てその中で地域貢献という形で動かして  
いただいています。バランスを取りなが  
ら関わっていく。一人一人に役割を与え、  
こなしていく事が實際輝くものかなと  
思つていますが、そこは今年私が200  
名以上いる仙台青年会議所メンバーに対  
してなかなかできていない部分なのかな  
と感じています。

最後に、今後の仙台と言いますか、日  
本では人口減少がどうしても起きてい  
きます。

そうになると、若い人たちがこれから地  
域で主役になっていくと思つますし、も  
ちろん仙台であつたり日本であつたり、  
または世界をフィールドにして活躍して  
いく方が多くなつてくると思うのですが、  
そういう子ども達に教育を通して、どの  
様な事が求められるとお考えですか。

**伊藤** この学校を4・3・2+3制にす  
る時に私の家族が原点でした。

我が家の兄弟は6人です。兄弟が多く  
ても地域の子とも達と群がって遊んでい  
ました。それが私の原風景なんです。

小学校一年生から高校三年生まで同じ  
敷地の中で生活する事で、子ども達同士

が影響しあつていくと思うんです。人  
間っていうのは群れて育つていくという  
生き物だから。それをここで実現して4・  
3・2+3の12年間の教育をひとつの場  
所で行いたい。その思いから同じ敷地の  
中に校舎一体型の9年間の教育と、高校  
の校舎を一つのキャンパスとして実現し  
ました。

ここでは小学校一年生から高校三年生  
まで同じ正門から通学します。最初この  
考えを小学校の保護者達に発信したとき  
猛烈に反対にありました。「高校生達が  
低学年の子ども達も達の模範生になつてま  
すか」と言われま  
した。

確かにそうで  
すね。高校生に  
もなると模範で  
はない生徒もい  
ます。でもやり  
ましょうよ。そ  
れをやる学校で  
す。人間は群れ  
て育つのです。  
そこに知恵も湧  
き、そして自分  
を統制する力も  
湧くんです。憧  
れる事が教育で  
しょ。

という訳の分  
からない理屈を  
言いながら、実  
行してしまつた  
んですよ。そう  
したら高校生が  
変わりました。

それが私は本当に良かったと感じていま  
す。

**熱海** 見られていると思つたという事で  
すね。

**伊藤** 入学式の翌々日迎りに対面式とい  
う新入生を上級生が迎える学校文化があ  
ります。

私は高校の対面式に小学校一年生も入  
れて欲しいと話をしました。  
そうしたら高校の生徒達が、「校長ま  
た冗談を言つて」って言うんです。



書道部が文化祭でステージイベント（ライブパフォーマンス）を行った際に作成した作品。書道パフォーマンス。文化祭でのイベントは毎年行っている。また、様々なイベントに呼ばれ各所で書道部がライブパフォーマンスを行っている。



生徒が「何をやるんですか」と言うので、私は「これも教育だ。この教育を見てくれ」と言って対面式に小・中学校一年生を入れてもらいました。

当日、対面式に新高校生が入って来ました。その後小学校一年生が入って来なくなり、「可愛い」という言葉と同時に拍手。それを見て私は「これが教育だよ」と教員達に話しました。

私は壇上で「でっかいお兄ちゃんお姉ちゃん達がいるね。君達もこうなるうねっ」と話し、高校生に向かっては「君達もこんな可愛い時代があったんだよ。成長したという実感を新一年生からもらいましたか」そうしたらまた拍手です。

私はこれだと思いました。教育というのは。

そうしたら高校生の間に教育大学に行きたいと言う子ども達も増えてきたんです。

人になっていく、社会人になっていく、

家族の大黒柱になっていく。そういう事が自然と学内で学べるという事です。他にも、高校生達がグリーン広場でボールを蹴ってサッカーをやっています。

そこに小学生達が入っていききました。そうすると高校生達が一步引いて遊ばせてやる。徐々に高校生が小学生達にボールの蹴り方を教え始める。

こういうことが私の原風景だなんて思っています。そこにいたわり合う教育、人間力そういうものが自然に生まれてくるのではないかなと感じています。面白いですよ。

**熱海** いろいろ伺って私の子どもが話していた事を思い出しました。先日も運動会があり、「年長が年少さんの手伝いをするのは、お姉ちゃんだからやってあげるんだよ」と話をしてくれまして、そういう話を聞いていると、まだ小さい兄妹がいるのですが面倒見の良い子どもになってきたというか、子どもながらに凄いなと思いました。

**伊藤** 忘れかけているものを常々心掛けて成長していくという事は良い事だと思います。

例えば節目の行事を大切にしております。

七五三のお祝いについては自分の命の原点に立ち返る事です。

他にも4年生になると1/2成人式。1/2成人式の節目で思考回路が変わり大人になるという事です。そこでも命に立ち返ります。

そうすると、そのつど子どもは親に感謝の言葉を言います。親から子どもは自

分が感謝を受けたときの話を聞きます。それがもの凄く親と子の絆を深めていきます。

他にも7年生になると立志式を行います。

やっぱり日本の文化を大切にしている。節目の行事を大切にしながら命の尊さを教えていく。そういう教育をしていきたいと思っています。

**熱海** ありがとうございます。今日は大変勉強させていただきました。お忙しい中、お時間をいただきました。誠にありがとうございました。



## エレクトロニクス技術のあくなき追求

◆自動制御盤 ◆省力化機器 ◆電子装置 ◆計測機器 ◆光学装置 ◆電子パーツ等

開発・設計・製作及び工事

# 東日本産業株式会社

代表取締役 石黒 雅之

〒981-0134 宮城郡利府町しらかし台6丁目2-11 TEL022-356-5253

仙台JCI思いやりのこころ塾

9月20日「仙台JCI思いやりのこころ塾」を実施しました。

本事業では、子どもたちが思いやりのこころを持ち社会性や人間性豊かな次世代を担う人財として育つために、学校生活の中で取り入れられ、どの地域でも実行可能なプログラムを作りました。

このプログラムを学校で実行することにより、子どもたちが実体験を通して他者への思いやりについて自らの考えを深め、具体的に私生活で何を行うべきかまで考えていただきました。



2018  
9.20  
thu

思いやりのこころ塾プログラム

1. 直接体験

普段はあまり接しない環境を体験することで、新しい知識や考え方を得ていただきました。

2. 議論・討論

実体験をもとにした意見や感想を発表しそれを更に深掘りすることで、周囲と互いに感謝と敬意を持つ場を設けます。

3. 発表

直接体験と議論・討論から得た考え方や知識、感謝と敬意をもとに、私生活で具体的に言う思いやりのある行動を考えていただき、発表していただきました。



今回は、授業の一環として仙台市立七北田小学校の小学校3年生（3クラス）を対象に、各クラスを午前と午後に分けて2時間ずつ道徳授業として開催しました。

午前中は直接体験として視覚障害者体験を行い、実際に視覚を奪われる状況を体験していただきました。子どもたちは視覚が奪われることによる不自由さに加え、言葉だけで相手に物事を伝えることの難しさを実感する機会となりました。



午後の部では、直接体験から感じたことを周囲の友達や先生と共有し、対話することで自身の考えを深めていただきました。

子供たちは実際に体験することでその人の気持ちを



実感し、その後の話し合いでは率先して自分の考えを表現していました。それぞれの考えが共有できたことで、参加した子どもたちが思いやりについて自分の考えを深める機会をつくることができました。また、先生方からも子どもたちが真剣に取り組み、考えを深めていく姿に、提起した道徳授業プログラムの効果を感じていただき、高い評価をいただきました。





Welcom to Sendai

2018  
6.10  
SUN

6月10日に「Welcome to Sendai」プロジェクトが開催されました。本事業では、インバウンドの需要で地域経済を活性化させるために、来仙意識向上に繋がる観光地域づくりを行っています。インバウンドへの取組みができていない横丁をモデルに「事業説明会並びに接客コミュニケーション」を開催いたしました。講師として櫻井亮太郎氏をお招きし、東北におけるインバウンドの実情や、国別のインバウンドに対する接客のポイントなどを学びました。その後、横丁事業者と共に、市民外国人、そして仙台JICメンバーでグループを作り、各横丁事業者が抱えている課題を解決するために様々な意見を交わしました。その後、2回にわたる横丁探検会を通して各事業者の課題解決に向け、チームごとに検証と改善を繰り返し行いました。



第48回宮城ブロック大会in水の里とめ

2018  
6.30・7.1  
sat・sun

6月30日・7月1日の両日にわたり、第48回宮城ブロック大会in水の里とめが宮城県登米市で開催されました。仙台JICからは約70名のメンバーで参加をいたしました。

第48回宮城ブロック大会in水の里とめでは「みやぎのお宝発見」今、気づく新たなまちの魅力」をテーマに、宮城ブロック内11の各地青年会議所メンバーが登米の地に集まりました。オープニングセレモニーでは、

宮城ブロック今日議会総務委員会委員長として出向している古川勇君をはじめとした仙台JICメンバーが運営を担当し、その活躍を多くのメンバーで見ることができました。また、同日の大懇親会では宮城ブロック内11の各地青年会議所メンバーと交流を深めることができました。



仮会員セミナーⅢ

2018  
7.7  
sat

仮会員セミナーⅢは、3部構成のプログラムで開催させていただきました。プログラム①第2回模擬理事会では、仮会員セミナーⅡで理事構成メンバーにいただいた意見から議案の修正を重ねることで事業構築の基礎を学ぶ機会となりました。また、午後から開催させていただいたプログラム②スピーキングセミナーでは、「個」の能力を高め、今後の活動に対する気概や覚悟を備えることができましたと感じております。プログラム③では「67年の軌跡から70周年の仙台JICと私たち」をテーマに、仙台JIC 67年の歴史を学び、これからのような取り組みや活動を展開していくべきか、3年後の70周年の自分がどのようになっているかを、イメージセッションする機会となりました。



サマーコンファレンス2018

7月21日(土)〜22日(日)の2日間にわたりサマーコンファレンス2018が開催されました。本年度は「日本創生への奇跡」をテーマにパシフィコ横浜にて多数のフォーラム、セミナーが開催され、仙台JICからの出向者達が活躍し、多数のメンバーが参加しました。また、第32回人間力大賞では、仙台JICからエントリーされたシンガリソングライターの清貴氏が見事に「会頭特別賞」を受賞されました。

「限らない可能性のサマコン」というコンセプトのもと、地方創生から繋がる日本創生に限りない可能性が発信され、各地JICメンバーや参加市民が地方創生の当事者であるということを醸成・確認することができました。

2018  
7.21・22  
sat・sun



IZUMI  
AUTOMOBILE  
DEMOLITION

廃車の高価買取・中古部品・中古車販売

有限 泉自動車解体 会社

営業時間: 8時30分〜17時30分(土曜17時)

☎022-255-9855

第7回例会(警備例会)

7月25日(水) 第7回例会第49回仙台七夕花火祭警備・クリーン説明会を仙台市福祉プラザにて開催いたしました。本例会では、仙台J.Cが仙台七夕花火祭を主催する意味をメンバーに理解していただくとともに、行政の方々も呼びびして、警備計画の重要性を深く理解する機会となりました。講師として、宮城県仙台中警察署地域課長 佐藤成徳様をお招きし、雑踏警備に関する危険性や留意点、他所での事例などを踏まえた注意事項をご指導いただきました。続いて、全体警備計画概要、クリーン計画について説明を受けた後、担当エリアごとにエリア別警備説明会を行いました。本例会は、安全安心で市民の皆様には喜ばれる花火祭の実施に向けて、メンバー一丸となって全力で取り組むことを再認識する機会となりました。



2018 7.25 wed

第9回例会

9月19日に「第9回例会(9月例会)組織は人なり!相手の可能性を引き出す相互コミュニケーション」が開催されました。本例会では、一般社団法人国際メンタルコーチング協会より講師2名をお招きし、『メンタルコーチングメソッドを用いたペア(グループ)コーチング』について講義とワークショップを実施いたしました。入会年度の異なる会員同士がペアとグループとなり実施したことで、相手を尊重する意識や新たな気づきを得ていただけたと感じております。また、普段なかなか話す機会が無いメンバーと積極的な交流を通して、会員同士の結束が高まることも、同じ組織で運動を展開する一員としての自覚を持つていただく機会となったと考えております。メンタルコーチング演習を通じて、相手を尊重する意識を育み、地域や人々の意識変革を促す運動を展開するリーダーとしての意識向上に繋がる機会となりました。



2018 9.19 wed

第8回例会第49回仙台七夕花火祭

8月5日(日) 第49回仙台七夕花火祭を開催しました。本年度は『彩り〜笑顔あふれる仙台へ〜』をテーマに掲げ、市民、行政、パートナー、協賛企業の皆様から募金活動や警備など大変多くのご協力を賜り約16,000発の花火を事故等なく打ち上げることができました。花火終了後と翌朝は仙台J.Cメンバー、パートナー、出店業者の方々が協力しクリーン活動を行いました。ご協力いただきました皆さまの方々に深く感謝するとともに、厚く御礼を申し上げます。



2018 8.5 sun

東北青年フォーラムMISAWA

9月1日(土)、2日(日)に東北青年フォーラムMISAWAが「心をつなぐ〜飛び立とう和をもって未来へ〜」をスローガンに開催されました。開催地である三沢市は米軍と自衛隊が共存し、基地からなる経済活動と共栄することによって国際都市として発展してきました。三沢の地が織りなす「和」と「結」の精神と文化を体感することで、メンバー一人ひとりの視野を広げ、地方創生へ向けた当事者意識を高める機会となりました。



2018 9.1・2 sat・sun

第2回通常総会

9月19日(水)に公益社団法人仙台青年会議所2018年度第2回通常総会をエル・パーク仙台ギャラリーホールにて開催いたしました。通常総会は、当会議所の最高意思決定機関であり、年に2回開催されます。審議事項として2019年度理事長予定者(案)、2019年度監事予定者(案)、三役並びに理事予定者(案)などが審議され、満場一致にて可決承認されました。報告事項として、2018年度上期事業報告並びに会計報告などがなされました。



2018 9.19 wed

弁護士法人後藤東京多摩法律事務所

〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町 2-10-26 旭コーポラス一番町 A303  
TEL.022-796-7037 FAX.022-796-7038

一般民事・刑事・家事・債権回収等  
お気軽にご相談ください

## 第67回全国大会 宮崎大会

10月4日～10月7日 「公益社団法人日本青年会議所 第67回全国大会 宮崎大会」が「愛と希望溢れる国日本へ」をテーマに全国695の各地青年会議所、35,000名の1年間のJCI運動の集大成として開催されました。宮崎の地にて愛郷心に触れることで、万物に感謝する気持ちと育み、運動の成果を検証するとともに、次代へと継承することで覚悟を持って挑戦し続ける人財へと成長する機会となりました。



2018  
10.4~7  
thu~sun

また、仙台JCIから27名の卒業生を含め全国の1978年生まれのメンバーを対象に卒業式も開催され、その功績を盛大にお祝いすることができました。

## 第10回例会

10月13日に「第10回例会（10月公開例会）」思いやりフォーラムを開催いたしました。本例会は2部構成で行い、第1部では協同組合連合会日本専門店会連盟（通称：日専連）理事長山口哲男氏をお招きし、講演



2018  
10.13  
sat

を行いました。子ども達が様々な直接体験をできる環境を地域の大人達が作ることで、次代を担う子ども達が人間性・社会性豊かに成長することの重要性をお話しいただきました。第2部では、第1部でご講演いただいた山口氏に加えて、宮城教育大学特任教授の堀越清治氏をお招きし、9月に実施した事業「仙台JCI思いやりのこころ塾」の報告を通して、直接体験の具体案である道徳授業プログラムの総括と検証結果報告を行いました。

## 2018年度JCI世界会議コア大会

10月30日（火）～11月3日（土）の5日間にわたり、2018年度JCI世界会議コア大会が開催されました。



2018  
10.30~11.3  
tue~sat

仙台JCIではジャパナイトにブース出展を行い、仙台、宮城のPRを行うとともに、世界各国の青年会議所メンバーとの友好を深めました。

## 第11回例会

11月17日（土）第11回例会（公開例会）「仙台連携イノベーションまちの魅力×インバウンドで地域活性化」が開催されました。



2018  
11.17  
sat

第1部では「横J×インバウンドによる地域活性化」として本年度の取り組みの成果を発表しました。第2部ではトークセッション「多様な連携が生み出す、新たな魅力ある地域づくり」として、一般社団法人日本インバウンド連合会理事長 中村好明氏をコーディネーター、仙台市経済局産業政策部復興課主任 白川裕也氏、リトル台湾in仙台発起人兼事務局長 中村萬紀氏、ESG&IKO オナー 齊藤 一郎氏をパネリストにお迎えし、今後の官民や地域同士の連携による仙台的発展に向けた具体的な行動の仕方について考える機会となりました。





















## しあわせな黄色いハンカチプロジェクト

仙台市立宮城野小学校、東宮城野小学校、榴岡小学校、岡田小学校、富沢小学校、東二番丁小学校にてしあわせな黄色いハンカチプロジェクトを開催いたしました。児童・保護者合わせて総勢955名に参加していただきました。

本事業は、地域防災訓練の一環として仙台JCI防災ワークショップを実施する中で、自助・共助への理解を深めるとともに、有事の際に必要な行動について考える機会を創出することで、参加児童それぞれの防災・減災のあり方を認識いただきました。

本事業を通じ、児童・保護者・学校関係者からなる小学校を中心とする地域全体への事業として、有事の際に掲げて無事を伝える黄色いハンカチの趣旨の先に、防災意識の向上と防災を観点としたコミュニケーション形成に必要不可欠となる人づくり・地域づくりプロジェクトとして、年間を通じ展開して参りました。



 阿部 義範 有限会社エイチアイファクトリー	 秋葉 雅子 合同会社オーブ	 伊藤 公都士 呑処 がりでぶちゅう	 石川 小百合 医療法人社団法人愛会石川内科	 海山 由紀 株式会社Vicamo	 梅宮 翔 MORE	 奥谷 光生 株式会社松田
 小川 勇介 株式会社OGAWA	 小野寺 裕彦 ブルデンシヤル生命保険株式会社	 梶屋 拓朗 グロービス経営大学院	 鎌田 隼 株式会社あわの里	 勝又 源紀 株式会社アイショウ	 郷古 正太郎 桜井 充 事務所	 後藤 泰己 エール法律事務所
 小坂 安由美 株式会社スカイバシスアソシエイツ	 佐々木 淳一 ジェイズファクトリー	 佐藤 貴紀 株式会社ALSERIO	 佐藤 恵里 個人会員	 佐藤 純也 株式会社びゅうトラベルサービス	 本年度 <b>40</b> 名が 同志として当会議所に 入会しました。	

公益社団法人仙台青年会議所

# 2018年度 新入会員のご紹介

 柴小屋 雄一 ソニー生命保険株式会社	 渋谷 幸祐 シヤ食品株式会社	 庄司 吉毅 株式会社イトステップ	 白石 大樹 株式会社山一地所	 菅原 大樹 仙台予約センター	 高橋 勇太 株式会社SGC	 田中 良寛 ホームオフィス仙台税理士法人
 寺崎 修平 株式会社興設	 中村 仁 ワールド警備保障株式会社	 中村 圭祐 株式会社コンストラクトモメント	 沼田 圭一 株式会社いちか	 林 祐子 東洋環境開発株式会社	 藤本 翔太 株式会社ナチュラル	 文屋 恵輔 清光商事株式会社
 松井 義隆 株式会社ダイヤ・ファミリー	 松木 宏彰 株式会社エルスタイル	 の場 雄大 株式会社プロキオン	 三浦 太洋 社会福祉法人大樹	 村岡 俊宏 三和自動車商事株式会社	 村上 大輔 株式会社マルミレンタリース	 渡邊 傑 ソニー生命保険株式会社

## 新入会員 寺崎 修平

株式会社 興設(きょうせつ)  
専務取締役



①: 経営者で現役メンバーでもある地元の先輩から入会を勧めていただきました。

仙台JCの話聞き、まずは仙台七夕花火祭を観る側からやる側になってみたいと思いました。

そして会社を経営する上で自身のスキルアップができると確信し入会を決めました。

②: 仙台JCの行う事業に参加してメンバーを含む沢山のひとと話してみたいです。人と話すのは好きですが、人前で話すのが大の苦手です。仙台JCには人前で話す機会がありますので、その機会を上手く利用しながら、上手く話ができるようになりたいです。

## 新入会員 中村 圭祐

株式会社コンストラクト・モーメント  
代表取締役



①: 今回の入会よりも前にお声をかけていただいた事もありましたが、まだ企業の一社員で決めかねておりました。ゼロベースで個人事業主から株式会社にし、まだまだ会社の代表・リーダーとしての経験不足を実感し、今後の会社の繁栄の為、個人の能力を向上していきたいと感じ入会を決めました。

②: 災害時、真摯に助け合いができる企業・行政・市民のコミュニティの形成を目指し、地域貢献に向けたサミットやフェスティバルの開催を仙台JCで行いたいと考えております。それには多くの市民が、興味をもって楽しんで参加してもらえらるイベント・アイデアを率先して構築できる人物になりたいと思っております。

公益社団法人仙台青年会議所

# 2018年度 新入会員 PickUP!

## Question

- ①: 仙台青年会議所に加入されたきっかけを教えてください。
- ②: 仙台青年会議所でやってみたいこと、または、なりたい自分について教えてください。

## 新入会員 渋谷 幸祐

シブヤ食品株式会社  
室長



①: 弊社社長で仙台JCのOBである兄から勧められたのが入会のきっかけです。私は当初JCという存在は知ってはいたものの具体的な活動内容は知らず不安もありましたが、会員開発委員会委員長の本気で熱いJCの話聞き入会を決意しました。

②: JC活動を通じて先輩方の力強く格好いい姿に感動しました。とても仲間に対して思いやりが溢れ、また誰でも平等に機会が与えられる環境で私も地域の為に少しでも貢献し、その中で同世代の志の高い仲間達と信頼を築き、友情を深め、自身が成長できたらと思います。

## 新入会員 石川 小百合

はちまん石川内科クリニック  
内科医



①: 青葉区八幡にあります「はちまん石川内科クリニック」にて内科医をしております。入会したきっかけはOBである義父からの「色々な方がいて面白いですよ。やってみたらどう？」の一言でした。

②: 「なりたい自分」は3つあります。1つ目は「スピーチ上手」、2つ目は「仕事はすぐやる」、3つ目は「いつでも元気」です。JCで活躍する先輩方、すべての方に共通しているのがこの3つだと1年を通して感じました。私も来年度はこの3点を意識して頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。



TEL.022-354-1776

ナイスクリーン株式会社



自然環境を再生し、豊かな地球を創造する

伐採・木材リサイクル・森林管理・中間処理業

**ナイスクリーン株式会社**

TEL:022-393-2205 FAX:022-393-2207

Mail:info@nice-clean.co.jp

サイト工業グループ会社

不動産のことは、何でもお気軽にご相談ください



宮城県知事免許（4）第5026号

**太陽地所株式会社**

〒984-0015 仙台市若林区卸町2-6-11 TEL.022-355-8343 FAX.022-782-7133

**barbe**

# 理事長挨拶



公益社団法人 仙台青年会議所  
第67代理事長

熱海 秀宗

2018年度の仙台青年会議所の活動も残り1ヶ月となりました。本年も、たくさんの方々の皆様、関係各所の皆様からご支援とご協力を賜りましたことに心より感謝と御礼を申し上げます。

本年の仙台青年会議所は、「IMAGINATION」思いやり溢れる仙台的創造」をスローガンに掲げ、想像力を高め、一人ひとりが互いに心を寄せ合い、思いやり溢れるしあわせを共感できる仙台の実現に向けて運動を展開し、私たちの住み暮らす仙台がより良い「まち」となるように、地域が抱える課題解決や地域の発展に向けて活動してまいりました。

本年度のJC活動が、一人の心を動かし、その一人がまた一人の心を動かすことで、社会を動かす大きな可能性を引き出すきっかけとなり、また想像力を高めて思いやりを持ち、相手に寄り添い行動することで、人財や組織、そして地域が成長し、希望に満ちた仙台の実現に繋がるものと確信しております。

2019年度の仙台青年会議所の活動におきましても、これまで以上のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。して挨拶とさせていただきます。

## 次年度理事長予定者紹介



公益社団法人 仙台青年会議所  
第68代理事長予定者

武山 祐樹

### 公益社団法人 仙台青年会議所

- 2010年 入会 会員開発委員会 委員
- 2011年 まちの活力拡大委員会 委員
- 2012年 事務局 次長
- 2013年 すてきな未来創造委員会 副委員長
- 2014年 例会委員会 委員
- 2015年 子どもの未来創造委員会 委員長
- 2016年 広報渉外室 室長
- 2017年 副理事長
- 2018年 副理事長

### 公益社団法人 日本青年会議所

- 2017年 安全保障確立委員会 委員
- 2018年 人間力大賞委員会 委員

### 公益社団法人 日本青年会議所 東北地区協議会

- 2014年 復興推進委員会 幹事

### 公益社団法人 日本青年会議所 東北地区宮城ブロック協議会

- 2011年 宮城JCアカデミー委員会 委員



### JCコミュニケーション推進委員会

- |              |             |
|--------------|-------------|
| ■ 委員長 豊川 義仁  | ■ 委員 佐藤 生   |
| ■ 副委員長 古関 貞義 | ■ 委員 高橋 洋人  |
| ■ 副委員長 高橋 太  | ■ 委員 千葉 智久  |
| ■ 幹事 伊藤 賢太郎  | ■ 委員 長嶋 利幸  |
| ■ 幹事 小野 洋平   | ■ 委員 永野 健太  |
| ■ 幹事 鈴木 泰臣   | ■ 委員 松谷 威一朗 |
| ■ 委員 新井 洋平   | ■ 委員 松良 基広  |
| ■ 委員 櫻木 亮平   | ■ 委員 松良 基広  |
|              | ■ 委員 万城目 篤志 |

Public Relations Magazine NOZOMI

## 編 集 後 記

公益社団法人 仙台青年会議所 2018年度広報誌「のぞみ」をご覧いただきまして誠にありがとうございます。本年度の仙台青年会議所は「IMAGINATION」思いやり溢れる仙台的創造」のスローガンのもと活動を行ってまいりました。

今回の理事長対談は聖ウルスラ学院英智伊藤宣子校長と対談をさせていただきました。また下半期に実施いたしました事業や例会などを報告させていただきました。

本年度、仙台青年会議所は、3回にわたり「のぞみ」を発行し、1年間を通じて仙台青年会議所は皆様とともに様々な事業を展開してまいりました。来年度も地域社会に貢献する様々な事業や活動、また結果として齎された成果などを発信させていただきますので、引き続きご覧いただけますようお願い申し上げます。

最後になりますが、広報誌「のぞみ」の発行にあたりましてご協力、ご支援を賜りました皆様に心から御礼を申し上げます。



株式会社 ここみケア

本社：〒980-0802  
宮城県仙台市青葉区二日町16番15号  
武山興産第2ビル1F  
TEL022-397-8783 FAX022-397-8736  
URL <http://www.cocomi.co.jp>

MEMBERS DINING

鼎新

KANAE

仙台市青葉区国分町2-2-2 ホテルグランテラス B1F  
TEL.022-268-1830